

8部

通信制大学院コーナー

【本コーナー以外のご参照ページ】

*仙台駅東口キャンパス他のご案内 p. 46～47参照

2026年度入学生数

ご入学おめでとうございます。通信制大学院へは、正科生13名（社会福祉学専攻10名・福祉心理学専攻3名）の方がご入学されました。心よりお喜び申し上げます。

1 今年度修了希望の方へ

今年度はいよいよ修士論文を提出し、修了を目指されることとなります。専攻ごとの修了までの流れをしっかりと把握しましょう。

●社会福祉学専攻の方

- (1) 2025年度に「研究指導（論文指導）」の構想発表会を済まされた方は、今年度は後半の内容と「社会福祉学研究演習Ⅱ」に取り組みます。
- (2) 4月初旬に『2026年度 学年暦』を送付しました。「研究指導（論文指導）」の各報告・発表会の日程、修士論文提出締切日、修了者の最終レポート提出期限や提出方法などを把握し計画的に取り組みましょう。
- (3) 入学年度に配付済み『通信制大学院ガイドブック』2章 修士論文の作成（p. 66～88）より、下記の①～⑥を再度確認してください。
 - ① 修士論文執筆の準備として、前年度までに書き方や方法論の学習をお勧めしていますが、十分でない方は『通信制大学院ガイドブック』p. 38～70を確認し、急ぎ理解を深めること。
 - ②通信制大学院ホームページの『科目別ガイドブック』（<https://www.>

tfu.ac.jp/tushin/gs_report/index.html) から「社会福祉学研究演習Ⅱ」を確認し、授業を通して指導を受け、疑問点は随時解消すること。

- ③ 第2回中間報告は、それまでの研究してきたことを文献や調査結果をもとにまとめる時期です。担当教員から論文指導を十分に受け、論文を執筆するようにしてください。
- ④ 年度の後半は修士論文作成に集中できるよう、授業科目の単位修得が必要な方は、遅くとも9月頃までにはレポートをご提出ください。
- ⑤ 修士論文提出締切日は、2027年1/18（午後4時）。
- ⑥ 修士論文の最終試験となる口述試問の日程変更は応じられません。

【社会福祉学専攻 第1回中間報告会】

- (1) 第1回中間報告レジユメの提出及び執筆要領

第1回中間報告会	2026年6/6
提出締切日	第1回中間報告会の約5日前の月曜日
中間報告レジユメ様式	『通信制大学院ガイドブック』p.72参照
提出方法・執筆要領	『通信制大学院ガイドブック』p.73参照

- (2) レジユメは、提出前に指導教員から指導を受けてください。

●福祉心理学専攻の方

- (1) 2026年度の修士論文作成を許可された方へは、前年度末に許可のお知らせと同封で「面接指導票」、「通信指導票」を送付しています。
- (2) 4月初旬に『2026年度 学年暦』を送付しました。各レジユメの提出締切日、修士論文提出締切日、修了者の最終レポート提出期限や提出方法などを把握し計画的に取り組みましょう。
- (3) 入学年度に配付済み『通信制大学院ガイドブック』2章 修士論文の

作成（p. 66～88）より、下記の①～⑥を再度確認してください。

- ① 修士論文執筆の準備として、前年度までに書き方や方法論の学習をお勧めしていますが、十分でない方は『通信制大学院ガイドブック』p. 51～70を確認し、急ぎ理解を深めること。
- ② 『通信制大学院ガイドブック』p. 77～78にて指導を受ける手続きを確認し、疑問点は早めに解消すること。
- ③ 第2回中間レジュメ提出時（10/24締切）に「修士論文提出願」を添付いただきますが、それまでに担当教員から論文指導を十分に受けていない、論文の進捗状況が芳しくないなどの場合、修士論文の提出が許可されません。計画的に、論文を執筆するようにしてください。
- ④ 後半は修士論文作成に集中できるよう、授業科目の単位修得が必要な方は、7月（遅くとも9月）までにはレポートをご提出ください。
- ⑤ 修士論文提出締切日は、2027年1/18（午後4時）。
- ⑥ 修士論文の最終試験となる口述試問の日程変更は応じられません。

【福祉心理学専攻 第1回中間レジュメ】

- (1) 第1回中間レジュメの提出及び執筆要領

提出締切日	2026年8/19水必着
第1回中間レジュメ	『通信制大学院ガイドブック』p. 74
提出方法・執筆要領	『通信制大学院ガイドブック』p. 75
指導について	『通信制大学院ガイドブック』p. 77～78

- (2) レジュメは、提出前に指導教員から指導を受けてください。
- (3) 構想レジュメの提出期限は、5/17です。

●研究倫理審査申請について

研究の方法によって（例えば、データ収集やインタビュー、ヒヤリング

など)は、本学大学院研究倫理審査委員会の審査を受け、十分な配慮がなされていると判断されることで実施が可能となります。

今年度修了予定の方へ、社会福祉学専攻の方は2025/10/13に、福祉心理学専攻の方は2026/3/19に修士論文研究倫理審査申請についてメールをいたしました。メールと添付書類を必ず確認してください。

【添付資料4種類】

1. ★研究倫理審査チェックシート
 2. ①研究倫理審査申請書
 3. ②研究協力同意書
 4. ③研究協力同意撤回書
- ・指導教員の指導を受けて申請書類を準備し、締切日までに申請(提出)してください。

【研究倫理審査申請締切日】

1	5月の第二水曜日	<p><提出先> <u>ウェルコム21大学院事務室</u></p> <p>【注】通信制大学院事務室経由で提出する場合は、締切日2日前(月曜日)必着で送ってください。</p>
2	6月の第二水曜日	
3	7月の第二水曜日	
4	9月の第二水曜日	
5	10月の第二水曜日	
6	11月の第二水曜日	
7	12月の第二水曜日	
8	1月の第二水曜日	
9	2月の第二水曜日	

※8月と3月は審査会の開催はありません。

※審査にはおおよそ3週間を要します(余裕をもってご申請ください)。

※審査承認後に変更が出た場合、その都度、変更申請書の提出が必要。

2

(新入生の方) 日本学術振興会「研究倫理e-ラーニングコース」受講について

入学時にご案内しました、日本学術振興会「研究倫理eラーニングコース (e-Learning Course on Research Ethics) [eL CoRE]」の受講につきまして、4月中に日本学術振興会より、個人の大学メールアドレス宛にID・パスワードの通知がされていますのでご確認ください。

【受講方法】

- ①日本学術振興会より届くID・パスワードを確認。
- ②下記サイトにアクセスし、ID・パスワードを入力、ログインして受講。
(<https://elcore.jsps.go.jp/top.aspx>)
- ③受講完了後は「修了証書」のPDFデータを下記提出先へメール提出。

提出先	本学 研究企画推進課 【 tfuhojyo@tfu.ac.jp 】宛
提出締切日	2026年8/31必着

※注意：提出先は、通信制大学院事務室とは異なります。

3

学習について

●レポートや在宅レポート試験などについて

『通信制大学院ガイドブック』p. 27～31を参照し、下記についてご確認ください（提出締切日は『2026年度 学年暦』を参照）。

- (1) 履修方法SR科目（修士論文作成科目は除く）は、スクーリング全日程終了後に『科目別ガイドブック2026』記載の事後課題レポートを提出（事前課題やスクーリング中の課題とは異なります）。
- (2) 事後課題レポートは、スクーリングに出席した年度内に提出（今年度の提出締切1/5）。提出方法は、『科目別ガイドブック2026』p. 4～

6を参照。

- (3) R科目の課題レポートで、今年度単位修得したい科目の提出締切は、12/15（今年度修了予定者：11/24）。*締切後1ヵ月程度でレポート返却となります。この時点で評価が再提出となった場合は、今年度の単位修得はできなくなります。
- (4) R科目の在宅レポート試験（単位修得試験）は、各科目のレポート2課題に合格後、1週間程度で事務室から試験問題（試験レポート）を送付します。
- (5) R科目の試験レポートは、課題レポートとは提出方法が異なります。初回の提出は、『科目別ガイドブック2026』p. 4～9を要確認。
- (6) 試験レポートの最終提出締切は、2/11（今年度修了予定者：1/21）。
*最終締切で提出した試験レポートの評価が不合格（再提出）の場合や締切に遅れた場合、次年度以降の単位修得となります。
- (7) 試験レポートの提出締切は、年4回（『2026年度 学年暦』参照）。
*今年度中に単位修得したい科目については、3回目の試験レポート提出までに終わらせましょう（最終の4回目ではそれまでの評価が不合格〔再提出〕になった科目や来年度に単位修得しても構わない科目を提出するように計画）。

●スクーリングについて

『通信制大学院ガイドブック』p. 29～31をお読みいただき、下記の点について再度ご確認ください。

- (1) スクーリングは、全日程出席が必須（事前課題への取り組みも必要）。
*日程の一部欠席や遅刻・早退をした場合は、単位の修得不可。
- (2) 今年度履修登録をしたSR科目について、スクーリングを欠席する場合は『通信制大学院ガイドブック』p. 30の「受講手続き」の2)に基

づき事務室にご連絡ください。

- (3) 昨年度までに履修登録済みで、スクーリングに出席していないSR科目について、今年度の出席を希望する方は、履修登録時にお申し出が必要です。お申し出のない方は出席できません、ご了承ください。

*事前事後課題は、『科目別ガイドブック2026』記載の課題に取り組んでください。

- (4) 福祉心理学専攻で「選択演習科目」の単位を修得するためには、同分野の「選択講義科目」の単位修得が必要です。
- (5) 今年度のスクーリング日程については、『2026年度 学年暦』を参照。
- (6) 対面（会場）スクーリングは、仙台駅東口キャンパスで開講します。教室は、当日に1階エレベータ前の掲示でご案内します。

4 / その他

- (1) 進級手続者へ『2026年度 学年暦』など副教材を送付済み
- (2) 進級手続者の方へは『科目別ガイドブック2026』は印刷版の送付は行っていません。4/3に送信したメール「【重要】2026年度4月以降の副教材について（ご連絡）」に添付したPDFファイルをご利用いただくか、通信制大学院のWebページから閲覧するなど、いずれかの方法で必ずご確認ください。印刷は必要に応じてご自身で行ってください。

科目別ガイドブック（シラバス）：

https://www.tfu.ac.jp/tushin/gs_report/index.html

- (3) 履修登録用紙を提出締切日4/15までに送付いただいた方には、順次教科書発送を行っています。教科書に間違いや不足などがなければご確認ください。

*不足などについては、到着後2週間以内にお知らせください。それ

以後の不足については、購入となりますので予めご了承ください。

しんどいけど 何ものにも代えがたい財産を

総合福祉学研究科
社会福祉学専攻修了生

鹿山 雄志

1. はじめに

通信制大学院に在籍する多くの方は、仕事や実践のフィールドを持ちながらの研究活動になるでしょう。修士論文の作成は、大学院での学びの集大成であると同時に、普段の福祉実践における自身の問題意識と真摯に向き合うプロセスです。私にとってこの過程は、単に研究成果をまとめる作業ではなく、「何を明らかにしたいのか」という問いを掘り下げ続ける営みでした。これは、言葉にするよりもはるかに難しいことです。どうしても普段の実践での表面的な解決思考が出てきてしまい、より深い本質的なところまで行きつかせることは、普段の業務ではあまりしないことだからです。これを学ぶために大学院という場が必要なのだと思っています。

2. リサーチクエスチョンがカギになる

修士論文の質を大きく左右するのは、リサーチクエスチョンの明確さだと実感しています。私自身、当初は関心の広がり比べて問いの焦点を絞ることが難しく、試行錯誤を重ねました。そのなかで助けになったのが、指導教員からの助言に加え、各授業のレポートを自らの研究テーマに関連づけて書くという取り組みです。

レポートを積み重ねるうちに、自分が何に違和感や関心を抱いているのかが徐々に見えてきました。それが言語化されることで、リサーチクエスチョンとして結晶化されていきました。この作業を丁寧に行うことで、先行研究の整理や分析の方向性も定まり、論文全体の骨格が形づくられて

いったように思います。なので、書いたレポートはときどき見返してみると、そこに論文執筆の大きなヒントがあったりします。

3. 一貫性を保つことと、同期の存在の大きさ

論文作成においても一つ重要だと感じたのは、「目的—方法—結果—考察—結論」の一貫性です。リサーチクエスションに対して適切な方法を選び、その結果をもとに考察を行い、結論へとつなげていく。この流れが乱れてしまうと、個々の内容がどれほど充実していても、論文としての説得力は弱まってしまいます。執筆中は「この記述は問いに答えているか」と常に自問し続けることが大切だと感じました。私たちのゼミでは、特に指導教員からこの点を叩き込まれました。

一貫性を保つうえで、他者との対話も大きな意味を持ちました。同じ指導教員のもとで学ぶ院生とのゼミでは、互いの研究について意見を交わし合い、自分では気づきにくい論理のずれや飛躍を指摘してもらうことができました。また、同期の院生とはオンラインで近況を報告し合いながら、研究に関する情報交換を続けました。こうした関係性は、自らの研究を客観的に見直す機会となり、論文の質を高めることにつながったと感じています。また、同期の院生とオンライン飲み会もやりましたし、中間報告会のあとはリアルで打ち上げもやりました。同じ目線で話せる仲間、仕事を離れて福祉のことを語り合える同志との時間は、本当に貴重な時間になるでしょう。

4. 後輩へのメッセージ

修士論文は長期にわたる取り組みであるため、計画的に進めることが不可欠です。私はあらかじめスケジュールを立て、期日より早めに課題を仕

上げることを意識してきました。その結果、見直しや修正に十分な時間を確保でき、論文の完成度を高めることができたと感じています。

後輩の皆さんにお伝えしたいのは、「良い問いを立てること」と「その問いに最後まで誠実に向き合うこと」の大切さです。大学院での研究活動は決して容易ではありませんし、仕事に加えてなんでこんなしんどいことをしているのだろうと思うこともあるでしょう。でも、その過程で得られる学びや仲間との出会いは、何ものにも代えがたい財産になります。それぞれの問いに向き合い、充実した研究生生活を送られることを願っています。そして、すべてを成し遂げた暁には、ぜひアカデミックガウンに袖を通し、その達成をどうか存分に味わってくださいね。

敵を知り己を知れば 百戦危うからず

OB MESSAGE

総合福祉学研究科
福祉心理学専攻

三浦 朋樹

はじめに

みなさんこんにちは。このたび寄稿の機会をいただき、僭越ながら私自身の経験が、これから論文執筆に挑まれる皆さんの一助となれば幸いです。

まずは、修士論文の構想段階から最後の提出まで、常に丁寧にご指導くださった平川先生、貴重なアドバイスをくださった先生方、事務局の皆様、研究にご協力いただいた方々、そして日々支えてくれた職場のスタッフや家族に心より感謝申し上げます。

振り返れば、この2年間はまさに「自分自身との対話と調整」でした。タイトルにもある通り、論文執筆とは外側の敵と戦うのではなく、己の中にある弱さや癖、そして強みを理解し、どうコントロールするかに尽きるのだと痛感しました。サボりたい自分、締め切りがないと動けない自分、追い込まれれば力を発揮する自分。そうした“内なる自分”と向き合いながら、仕事や家庭と両立しつつ進める論文執筆は、皆さんにとってもきっと大きな挑戦になると思います。

私は「毎日少しでも論文に触れる」ことを自分のルールとし、誤字脱字のチェックだけの日があっても必ずパソコンを開きました。また、毎週末を小さな締め切りとして設定し、スケジュール管理を徹底することで、長期戦を乗り切ることができました。

作成過程・構想・レジュメ

私の研究テーマは入試時に提出した研究計画書から大きくは変わらず、そのまま構想に入りました。しかし、調査方法やデータ収集の具体的な部分は当初は固まっておらず、先生との相談を重ねながら徐々に方向性を明確にしていきました。

4月中にタイトルと構想案を練り、5月初旬には先生との打ち合わせを経て構想レジュメを提出しました。私は関西在住ということもあり、メールやオンライン面談を活用しながら、構想の修正や執筆の方向性を整えていくことができました。

構想段階は、研究の“骨格”をつくる大切な時期です。ここでしっかりと軸を固めておくことで、その後の執筆が格段に進めやすくなりました。

資料収集

構想や倫理審査、レジュメ作成と並行して、先行研究や参考文献の収集も進めていました。私は児童発達支援を行う療育施設で働いているため、研究テーマが日々の実践と直結しており、現場で感じる疑問や明らかにしたい課題が明確でした。そのため、M1の頃から少しずつ文献を読み、要点をまとめる作業を進めていました。

特に私にとって先行研究の読み込みは時間がかかる作業でした。関連文献を探し、読み込み、整理し、自分の研究とのつながりを見つける作業は、地道でありながら研究の基盤を支える重要なプロセスです。早い段階からコツコツ取り組んでおいたことは、後になって大きな助けとなりました。

調 査

スケジュール管理を徹底していたとはいえ、研究には想定外の出来事がつきものです。本格的な調査開始を8月に予定していましたが、仕事の多忙さや酷暑の影響で心臓の持病が悪化し、調査開始が1ヶ月ほど遅れてしまいました。

しかし、不思議と焦りはありませんでした。というのも、調査以外の章の執筆を日々進めていたため、全体の進捗が大きく遅れることはなかったからです。体調が優れない時期でも「できる部分を進めておく」ことが精神的な支えとなり、結果として調査の遅れを吸収することができました。

まとめに至るまでの苦勞

調査終了は10月中旬となり、そこから分析とまとめに約1ヶ月を費やしました。この期間は、研究の核心に迫る作業であり最も充実した時間でした。

データと向き合い、仮説を検証し、見えてくるものと見えてこないもの間で揺れながら、少しずつ自分の研究が形になっていく感覚は、他では味わえない経験です。思うように進まないもどかしさと新しい発見に出会う喜び。その両方を抱えながら進めたこの期間は、振り返ると非常に濃密で研究者としての成長を実感できる時間でした。

後輩へのメッセージ

何かに挑戦し、それをやり遂げることは、とても尊いことだと思います。修士論文の執筆は決して簡単な道ではありませんが、その過程で得られる学びや気づきは、必ず人生の糧になります。

私にとって修士論文は人生をもう一段楽しめるようになる大きな転機でした。皆さんにとっても、この挑戦が新しい視点や自信をもたらし未来を切り開くきっかけとなることを願っています。

